

牛乳の摂取と心血管疾患、ガンなどの全ての疾患との相関における、システマティックレビュー及びメタアナリシス ー牛乳または発酵乳の摂取と死亡率との間には一貫した相関はないー

2014 年秋に Michaëlsson らが報告したスウェーデンのコホート研究の論文¹⁾は、牛乳摂取と死亡率、女性の骨折との間に相関が見出されたとするもので、牛乳についての否定的な情報として国内外のメディアで多く取り上げられ注目を集めました。

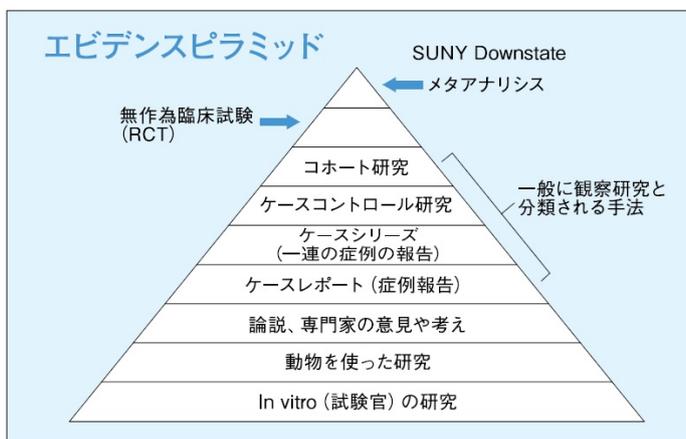
しかし一方で、上記コホート研究の結果は、ほぼ同時に日本から発表された論文²⁾を始め、従来から報告されているものとは矛盾する内容でもあるので、発表当初から疑問視する向きもありました。J ミルクウェブサイト上でも、論文の記述で見られる矛盾点・疑問点を指摘してきたところです。

ところが最近になって、上記スウェーデンの論文の著者の内、中心となっていた 2 名の教授を含むグループにより、これまでに報告されている牛乳摂取と死亡率との関連性をテーマにした、彼ら自身のコホート研究を含めてシステマティックレビューおよびメタアナリシス（注）を行った研究結果が発表されていることが明らかとなりました³⁾。それによると、「牛乳摂取と死亡率との間には一貫した関係性は見られなかった」と結論付けられています。

- 1) Milk intake and risk of mortality and fractures in women and men: Cohort studies. Michaëlsson et al, BMJ. 2014;349:g6015. doi: 10.1136/bmj.g6015.
- 2) Milk drinking and mortality: Findings from the Japan collaborative cohort study. Wang et al, J. Epidemiol. 2015;25:66–73. doi: 10.2188/jea.JE20140081
- 3) Milk Consumption and Mortality from All Causes, Cardiovascular Disease, and Cancer: A Systematic Review and Meta-Analysis, Larsson et al, Nutrients 2015;7:7749-63. doi:10.3390/nu7095363.

注) メタアナリシスとは

同じ目的で行われた複数のコホート研究を統合的に解析するもので、現状、実現可能な研究手段の中では、いわゆる「エビデンスピラミッド」の最上段に位置づけされており、単一のコホート研究に比べて信頼性が高く、無作為臨床試験よりも上位にあるとされています。



(図の出典 [J ミルク 第 41 回メディアミルクセミナーニュースレター](#))